ｅ－普及だより　　第１６５号（通算９３２号）

平成３０年１月１９日
編集・発行　農林水産省生産局技術普及課

☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆
ᔕᔕᔕ

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/katsuryoku_kojyo/dai2/sankou4.pdf

＜資料のポイント＞
　農漁業において、労働者を雇い入れる場合は、個人経営であれ法人経営であれ、労働基準法の適用を受けることになります。ただし、農漁業は、その性質
上天候等の自然条件に左右されることから、農漁業だけを営む場合は、労働時間、休憩、休日に関する規定は適用されません。
　一方で、加工・販売などにも取り組む場合は、労働時間等の規定が適用される場合がありますので、注意が必要です。
　労働基準法の適用は、事業場ごとです。事業の業種も事業場ごとに判断されるので、特に６次産業化に取り組んでいる方は注意が必要です。

（ご不明な点や具体的な事例に関する相談窓口は、最寄りの都道府県労働局や労働基準監督署で対応可能となっております）

＜各都道府県労働局等の問合せ先一覧＞
http://www.mhlw.go.jp/kouseiroudoushou/shozaiannai/roudoukyoku/

※お問い合わせ先
　　農林水産省　生産局　技術普及課（担当：大塚、我部山）
　　（０３－３５０１－３７６９）

＝＝
◆農業資材比較サービス「AGMIRU」・農林水産業流通マッチングナビ「agreach」について
　　【生産局技術普及課・食料産業局食品流通課】
＝＝
　農業経営に役立つ「見える化」ウェブサイト「AGMIRU（アグミル）」と「agreach（アグリーチ）」についてご紹介します。

①農業資材比較サービス「AGMIRU（アグミル）」
　AGMIRU（運営企業：ソフトバンク・テクノロジー株式会社）は、農業資材の種類や価格帯、アフターサービス等の希望条件を登録すると、希望に沿う資材を扱う販売店から資材の見積が届き、最適な販売店とマッチングできるサービスです。昨年６月末からサービスが開始され、12月末までに、登録者が3,300件を超えました。
　また、これまでに例えば、「決済機能を付けてしい」「ハウスや段ボールの商談もできるようにしてほしい」等のたくさんのご要望を頂いており、これらを踏まえて年度末までにシステムを改善予定です。

※AGMIRUトップページ
　https://agmiru.com/
※AGMIRUの直近の活用状況や利用者アンケート結果はこちら
　http://www.seisansizai-kasika.jp/kentou.html#vol03

②農林水産業流通マッチングナビ「agreach（アグリーチ）」
　agreach（運営企業：公益財団法人流通経済研究所）は、販売先を見つけたい生産者の皆様と、新たな仕入先を探しているバイヤーとのマッチングを応援する無料サービスです。
　生産者の皆様が、自らの農産物の販売先を見つけるための新しいツールとしてご活用いただけます。

※agreachトップページ
　https://agreach.jp/
※agreachパンフレット
　http://www.maff.go.jp/j/shokusan/ryutu/soumu/pdf/agreach_pamph.pdf

今後もAGMIRUやagreachの動向について情報提供させていただきますので、農業者の皆様の活用促進に御協力ください。

※お問い合わせ先
【AGMIRU】
農林水産省　生産局　技術普及課（担当：齊賀、本宮）
（０３－６７４４－２１８２）
【agreach】
農林水産省　食料産業局　食品流通課（担当：朝倉、堀）
（０３－３５０２－５７４１）

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
◆農林水産省ホームページの農業技術・研究の見える化サイトを更新！！
～農業技術総合ポータルサイトのご案内～
【大臣官房技術政策室】
【生産局技術普及課】
【農林水産技術会議事務局研究企画課】
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

農林水産省では、農業現場における技術的問題の解決に向けて、最新の技術や研究成果について普及指導員の皆様や農業者の方々が活用しやすい環境を整備するため、農業技術に関する情報を１か所で確認・検索できる「農業技術総合ポータルサイト」を昨年４月に開設しました。この度、当ポータルサイトをリニューアルし、情報を追加しましたのでご案内いたします。
※これまでご利用されたことのない方も、ぜひ実際にご覧ください。
http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/gijutsu_portal/top.html

日頃より普及指導活動に携わっている皆様方におかれましては、農業者の方々へ当ポータルサイトの情報をお知らせいただくとともに、日々の普及指導活動にご活用いただければ幸いです。

当ポータルサイトのポイントを紹介いたします。
（１）新技術を動画で紹介！◆動画更新◆
新たに「グレーンドリルを用いた水稲乾田直播」技術を紹介しています。
（２）基本的な栽培技術を見る！
農業者が新たに生産を始める際など、基本情報を掲載しています。
（３）実用化された技術を探す！◆情報追加◆
既に栽培を始めている方に向け、新たに技術情報を追加しました。
（４）研究成果・研究者を探す！
研究成果や研究者などを絞り込み検索で閲覧することができます。
（５）農業に役立つ情報を知る！◆新設◆
プレスリリースや気象・土壌データ等の情報を新たに追加しました。
（６）皆さんの声を募集します！
生産現場での課題ニーズを募集し研究開発につなげています。

今後とも、皆様からのご意見をいただきつつ、ポータルサイトがより良いものとなるよう運営を続けたいと考えております。

※お問い合わせ先
ポータルサイト全体について
農林水産省　大臣官房　技術政策室（担当：小宮、向井）
（０３－６７４４－０４１５）
（２）及び（３）について
生産局　技術普及課（担当：大塚、我部山）
（０３－３５０１－３７６９）
（４）のうち、農業研究見える化システム：アグリサーチャーについて
農林水産技術会議事務局　研究企画課（担当：森田、佐藤、中村）

（０３－３５０１－９８８６）

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
◆低コスト化・高収益化に資する農業実用化技術（園芸分野）の募集について
【生産局技術普及課】
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

農林水産省では、園芸分野（野菜作・果樹作）において、低コスト化・高収益化に資する実用化技術（AI・ICT等を含む）に関する情報を募集します。担い手に選択肢として示し得ると判断された技術については、関連情報を農林水産省ホームページに掲載します。

●募集対象技術
募集する技術は、担い手の園芸分野（野菜作・果樹作）での経営において、
（１）労働費の低減（労働時間の短縮、１人当たり作業面積の拡大、省力技術の導入等）
（２）物財費の低減（資材、農機具、農業用ハウス等施設コスト等の低減等）
（３）売上げの拡大（販売単価の向上、10a当たり収量の増大等）
に資する実用化技術です。（実用化技術とは、既に普及実績がある、又は現場で導入可能な状態の技術を指します。また、当該技術には、栽培技術、品種、資材、農機具、施設、AI・ICT等の先端技術等を含みます。）

●募集対象者
担い手の経営革新に資する園芸分野（野菜作・果樹作）の実用化技術を開発し、当該技術について担い手等からの問合せに対応できる民間企業、公設試験場等の試験研究機関、大学、農業者及び普及指導機関等とします。【自薦】
また、当該技術の関係者以外からも、実際に技術を活用した農業者、普及指導機関等から、現場において導入効果のあった民間企業等が開発した技術についての推薦も受け付けます。【他薦】

●提出期日
【他薦の場合】平成30年１月22日（月曜日）午後５時まで
【自薦の場合】平成30年１月31日（水曜日）午後５時まで

詳細は農林水産省のホームページに掲載されています。
http://www.maff.go.jp/j/press/seisan/gizyutu/180105.html

※お問い合わせ先
農林水産省　生産局　技術普及課（担当：大塚、坂本）
（０３－３５０１－３７６９）

＋＋・……　施策情報　……・＋＋
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
◆「コメ中のカドミウム低減のための実施指針」の改訂について
【消費・安全局農産安全管理課】
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

農林水産省は、農家に営農指導する立場にある者を対象として「コメ中のカドミウム低減のための実施指針」を策定し、普及指導員・営農指導員の皆様をはじめ都道府県、関係団体等の御協力のもと、指針に基づく低減対策の普及を進めてきたところです。
この度、コメの食品としての安全性をさらに高めるため、カドミウム低吸収性イネの利用を、対策技術として加える改訂を行いました。
皆様におかれましては、改訂した指針を御活用いただき、引き続きそれぞれの生産実態に応じた御指導をお願いいたします。

詳しくは、以下のプレスリリース等をご覧ください。
＜プレスリリース：１月12日付＞
http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/nouan/180112.html

＜農林水産省ウェブページ：食品中のカドミウムに関する情報＞
http://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_cd/index2016.html

※お問い合わせ先
　農林水産省　消費・安全局　農産安全管理課（担当：小田、牛田）
（０３－３５９２－０３０６）

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
◆農業用ハウスの設置コスト低減に向けた技術提案会の開催について
【農林水産省生産局園芸作物課】
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
　農林水産省では、農業者が生産性を高めるためにハウスを整備しやすくするため、農業用ハウスの低コスト化に向けた検討を進めています。
　その一環として、ハウス業界の内外から低コスト化に向けたアイデアを集め、情報発信を行うため、２月２０日（火）に都内で「第２回農業用ハウスの設置コスト低減に向けた技術提案会」を開催します。
　昨年１月に開催した第１回提案会では、「建設足場資材を活用して資材費を低減したハウス」「コンクリートを用いない杭基礎工法による低コストハウス」などが提案され、この１年間で実証段階の技術が市販化されたり、農業者との実証研究が始まったものもあります。また、自治体からご提案いただいた技術も２件ありました。
　普及指導員の皆様におかれましては、ハウスの高度化や低コスト化にご関心の高い農業者に、本提案会及びその結果についてご紹介いただくとともに、貴県内で研究あるいは普及に取り組んでおられるハウスの低コスト化技術があれば、ご応募いただけるよう関係者の皆様とご相談いただけると幸いです。

「第２回農業用ハウスの設置コスト低減に向けた技術提案会」
日時：平成３０年２月２０日（火曜日）１３：００～１６：００
場所：中央合同庁舎４号館９階　農林水産政策研究所セミナー室
所在地：東京都千代田区霞が関３－１－１

※ 詳細は以下のページをご覧ください。
（アドレス）http://www.maff.go.jp/j/press/seisan/kaki/180117.html
（提案の応募締切：２月９日（金））

※ お問い合わせ先
　農林水産省　生産局園芸作物課（担当：篠崎）（０３－３５９３－６４９６）

┼┼・……　研修・公募等のお知らせ　……・┼┼
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
◆平成30年度　加工・業務用野菜生産基盤強化推進事業の公募について
（加工・業務用野菜の安定供給に関する事業のお知らせ）
【独立行政法人農畜産業振興機構】
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
　（独）農畜産業振興機構では、加工・業務用野菜生産基盤強化推進事業の参加者を募集しています。
　普及指導員の皆様におかれましては、ご担当の地域の生産者他、加工・業務用野菜取引に関心を持たれている皆様に対しまして、是非ご紹介いただきますよう、よろしくお願いします。

〇事業概要：
　生鮮用野菜から加工・業務用野菜への転換等を推進する産地を対象に、安定生産に必要な土壌・土層改良、被覆資材の施用等の作柄安定技術の導入に必要な経費を支援します。
〇対象野菜：
　えだまめ、かぼちゃ、キャベツ、スイートコーン、たまねぎ、にんじん、ねぎ、ほうれんそう及びレタス

〇事業対象者：
　農協連合会、農協、農事組合法人、農地所有適格法人　等
〇事業対象面積（１品目ごと）：
　１０ｈａ以上５０ｈａ以下　（追加応募の場合は、５ｈａ以上）
〇助成単価等
　【事業対象面積10a当たり】１５万円
　（１品目あたり７，５００万円が上限となります。）

※詳細は以下のページをご覧ください。
　https://www.alic.go.jp/y-josei/yajukyu03_000094.html
（応募の締切：平成３０年２月５日（月）正午）

※お問い合わせ先
　（独）農畜産業振興機構　野菜需給部助成業務課（担当：山﨑、伴、菅原）
　　（０３－３５８３－９７９７）
　農林水産省　生産局園芸作物課（担当：宮成）
　　（０３－６７３８－７４２３）

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
◆平成30年度「イノベーション創出強化研究推進事業」公募中
　　【技術会議事務局研究推進課】
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
　生研支援センターは、平成30年度「「知」の集積と活用の場によるイノベーション創出推進事業」のうち提案公募型研究資金事業である「イノベーション創出強化研究推進事業」の公募を平成30年１月16日（火曜日）から開始いたしました。本事業は、様々な分野の多様な知識・技術等を結集した研究開発を重点的に推進する提案公募型研究です。
　普及指導員の皆様におかれましては関係者の皆様に広く周知いただければ幸いです。

[公募サイト（生研支援センター）]
http://www.naro.affrc.go.jp/brain/innovation/koubo/h29.html

※お問い合わせ先
　国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構　生物系特定産業技術研究支援センター（生研センター）
　新技術開発部　連携・企画課
　（担当：中村）（０４８－６６９－９１７１）

※記事に関するお問い合わせ先
　農林水産省　農林水産技術会議事務局　研究推進課　産学連携室
　（担当：小林、新地、佐野）（０３－６７４４－７０４４）

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
◆平成29年度補正「生産性革命に向けた革新的技術開発事業」及び「革新的技術開発・緊急展開事業」公募中
　　【技術会議事務局研究推進課】
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
　生研支援センターは、平成29年度補正「生産性革命に向けた革新的技術開発事業」の公募を平成30年１月16日（火曜日）から開始いたしました。
　本事業は、農林水産業における生産性革命を推進するため、人工知能（ＡＩ）やドローン等の先端技術を活用して、生産現場に実装可能な省力化・低コスト化等に資する技術開発を行うものです。
　また、同日より「革新的技術開発・緊急展開事業」の公募も開始しています。本事業は、国際競争力の強化に向け、明確な開発目標の下、生産者・企業・大学・研究機関がチームを組んで行う、生産者への実装までを視野に入れた技術開発を行うものです。
　普及指導員の皆様におかれましては関係者の皆様に広く周知いただければ幸いです。

[生研支援センター]
生産性革命に向けた革新的技術開発事業：
http://www.naro.affrc.go.jp/brain/productivity/koubo/h29.html
革新的技術開発・緊急展開事業：
http://www.naro.affrc.go.jp/brain/h27kakushin/keiei/koubo_h29/index.html

※お問い合わせ先
　国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構　生物系特定産業技術研究支援センター（生研センター）
　新技術開発部　連携・企画課
　（担当：中村、寺口、松田）（０４８－６６９－９１７２）

※記事に関するお問い合わせ先
　農林水産省　農林水産技術会議事務局　研究推進課
　（担当：小川、山下、渡邊、金子）（０３－３５０２－７４３７）

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
◆「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」の公募予定について
【技術会議事務局研究推進課】
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
　農林水産省では、東日本大震災の被災地の農林水産業の復興・創生のため、委託事業「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」において、平成３０年度から、状況変化に起因する新たな技術的課題を解決するための現地実証研究を行うとともに、研究成果の社会実装促進の取り組みを実施することを予定しています。
　本事業の実施（公募課題の受託）を希望する研究機関等を一般に広く募ることにいたしましたのでお知らせいたします。公募及び公募説明会は下記により行う予定です。

【公募等の予定】
　公募開始　　２月中旬頃
　公募説明会　公募開始から１～２週間後に
　　福島市内、仙台市内にて開催
　※　詳細が決まりましたら農林水産技術会議事務局のホームページにおいて
　　お知らせ致します。

【お問い合わせ先】
　農林水産技術会議事務局　研究推進課（江頭(えがしら)･柴田･中野）
　　（０３－６７４４－７０４３）

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
◆「戦略的プロジェクト研究推進事業」の公募予定について
【技術会議事務局研究企画課】
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
　農林水産省は、①農林漁業者等のニーズを踏まえた明確な研究目標に基づく技術開発、②基礎的・先導的な技術開発によるイノベーションの創出と社会実装を推進するため、委託プロジェクト型の研究資金事業である「戦略的プロジェクト研究推進事業」の公募を、平成３０年２月上旬から開始する予定です。
　特に①は、生産者への実装までを視野に入れた技術開発を行うものであり、普及指導員の皆様におかれましては関係者の皆様に広く周知いただければ幸いです。

※公募等の予定
　公募開始　　２月上旬頃
　公募説明会　公募開始後都内にて開催
　（詳細が決まりましたら農林水産技術会議事務局のホームページにおいてお知らせいたします。）

※お問い合わせ先

農林水産技術会議事務局　研究企画課（轟木、田中、佐藤）
（０３－３５０１－４６０９）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
編集後記
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
新年第１号です。今年もよろしくお願いいたします。今回は年末年始を挟んでいるため、メルマガの原稿があまり集まらないのではと思っていましたが、大量の原稿が集まりました。年末年始でもみんな仕事をしておる次第です。今回はメール文面が長くなるため２回に分けてお送りします。近日中に次号を配信予定です。◎編集担当Ｔ◎
ᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕᔕ

※メルマガの配信登録はこちら
http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html

※バックナンバーはこちら
http://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/hukyu/h_mailmag/index.html

※ＰＤＦ形式のファイルの閲覧について
メールマガジンに記載したＵＲＬで、一部ＰＤＦ形式のものがあります。
ＰＤＦファイルをご覧いただくためには農林水産省ホームページ
⇒　http://www.maff.go.jp/j/use/link.html
「３　ＰＤＦファイルについて」をご覧になり、「Get Adobe Reader」
のボタンでAdobe Readerをダウンロードしてください。